

建築プログラミング公開研究会

ー至民中学校のプログラミングプロセスを巡って

建築プログラミング小委員会では、施設の企画・計画プロセスにおける建築プログラミング、すなわち具体的な建築設計を実施する前提となる諸条件を明らかにし整理していく作業・活動と、その手法について調査研究を進めています。現在はとくに、施設の所有者・利用者・事業主など竣工後に建築を活用する立場から見て価値の高い建築を創るために、建築プログラミング段階での興味深い取組みや新たな施設価値を求める試みの実践事例を取り上げ、経済的のみならず社会文化的な価値が発現される際のメカニズムを探求しています。

今回は、中学校教育の新しい試みとして「異学年型教科センター方式」を採用し、プロポーザル方式による設計者選定の後に、教育関係者・教育学者・建築関係者がお互いの領域に踏み込み合い、さらに生徒も関わりながら、学校づくりを進めた福井市至民中学校を取り上げます。至民中学校はその平面型、空間構成の特徴もさることながら、計画のもととなった教育方針、教育プログラムの面からも注目され、建築を活用する立場からも価値の高い好例と考えられます。

公開研究会では、施設見学の後、基本計画策定に中心的に携わった福井大学や福井市教育委員会関係の方々、至民中学校の先生方、そして建築設計者の方に、建築プロセスにおける経験談を伺いながら、利用者にとって価値の高い建築を創造する上で、建築プログラミングにおいて不可欠な検討項目や、成功に導く進め方、さまざまなアイデアを発想する秘訣等について、学びたいと考えています。

■主催：建築社会システム委員会・建築プログラミング小委員会

■日時：9月29日（水） 13時00分～17時30分

■会場：福井市至民中学校（福井県福井市南江守町 65-20）

■プログラム：

○見学会 13:00～14:30 挨拶：塚田雅洋（至民中学校長）

○研究会 15:00～17:30 司会：井上誠（宮城大学）

1. 主旨説明：山田哲弥（清水建設／小委員会主査）

2. 話題提供： 1）至民中学校の基本計画に込めた想い：松木健一（福井大学）

2）至民中学校の空間デザインのプロセス：柳川奈々（設計工房顕塾）

3. パネルディスカッション：

上記2名＋松下聡（福井大学）、大橋巖（至民中学校）、

渡辺本爾（元福井市教育長）、津田由起枝（元至民中学校長）

■定員：30名（申込先着順）

■参加費（資料代含む）：

会員：1,000円、登録メンバー：1,500円、会員外：2,000円、学生：500円

■申込方法：（事前申込のみ）

「催し物名称」を記し、氏名・勤務先・所属・同住所・同電話番号を明記し、「研究会で質問したい内容」を必ず添えて、電子メールで下記に申し込んでください。定員を超えた場合、質問内容により参加者を選定し、9月3日（金）までに、E-mailにて事務局より連絡いたします。なお、研究会後、懇親会を予定しています。申込みの際、参加希望の有無も記して下さい。

（参考） 至民中学校 HP：<http://www.fukui-city.ed.jp/shimin-j/>

しみん教育研究会（著）、建築が教育を変える一福井市至民中の学校づくり物語、鹿島出版会

■申込(連絡)先：学会事務局・森田（E-mail: morita@aij.jp）

■申込締切：8月30日（月）まで